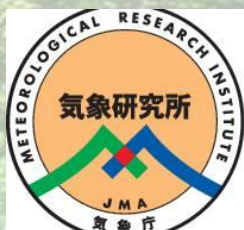


気候変動予測と自然再興の関わり

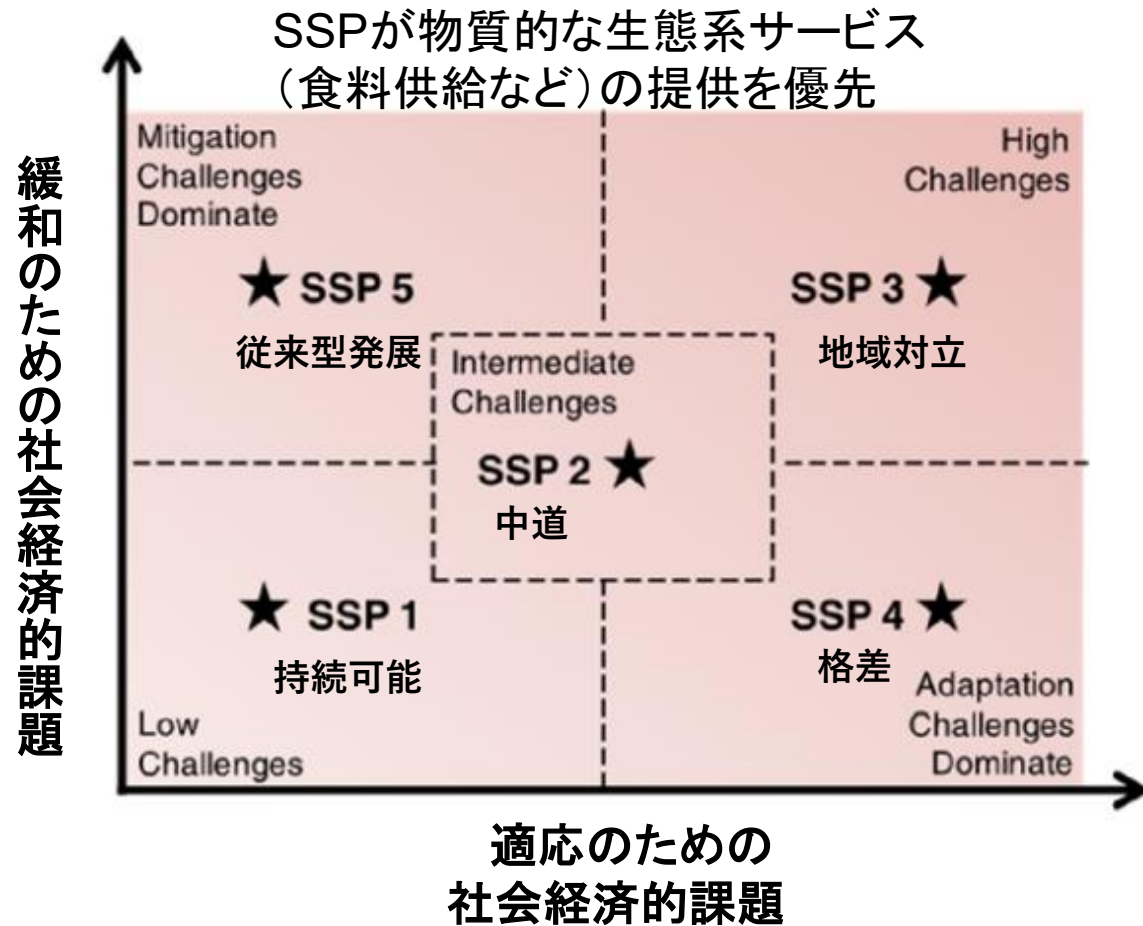
気象研究所 気候・環境研究部
仲江川 敏之



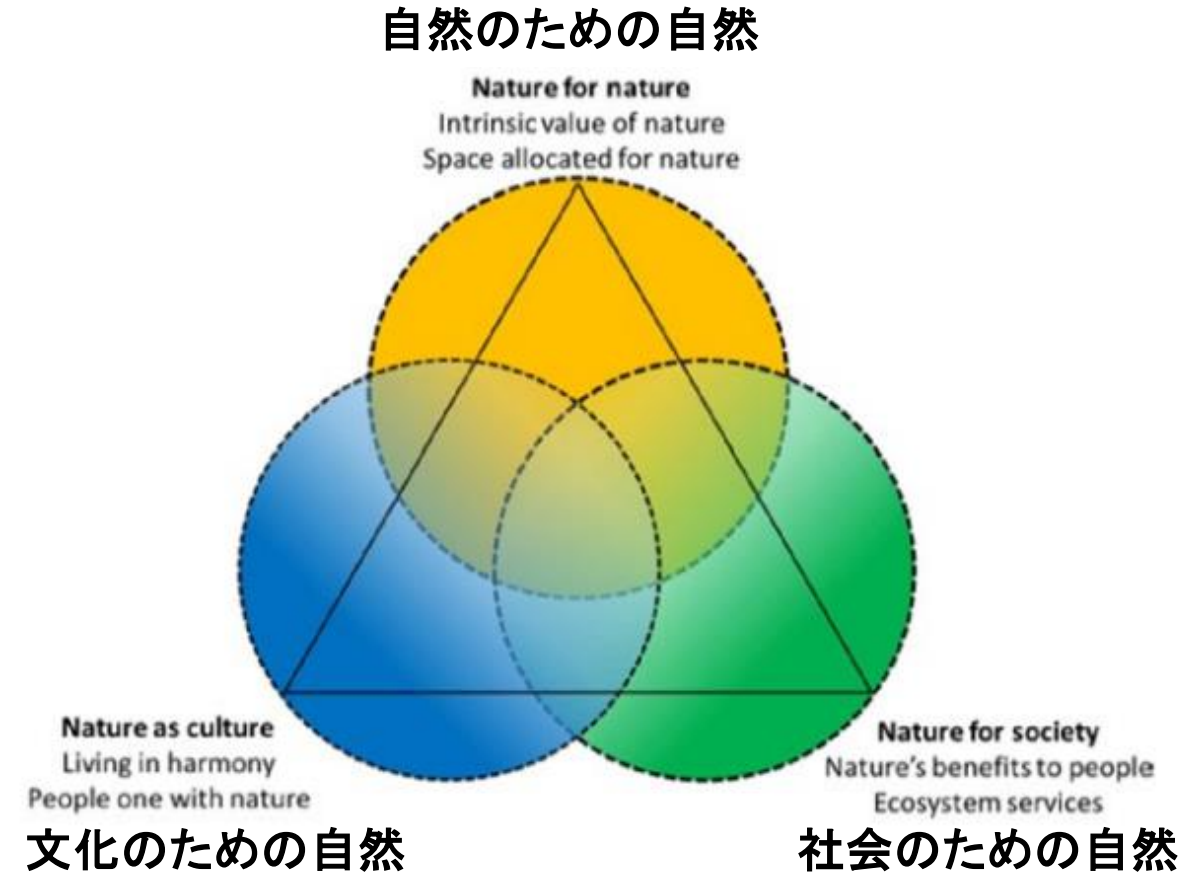
2025年度環境研究機関連絡会交流セミナー
令和7年11月11日(火)

共有社会経済経路とNature Futures Frameworkの比較

共有社会経済経路



Nature Futures Framework



共有社会経済経路(SSP)シナリオ

- これまで: CMIP6実験 for IPCC AR6 (2021)
 - 生物多様性や自然の変化は、気候変動や土地利用変化の影響として間接的に考慮されることが多く、変化の要因として明示的に組み込まれていない
 - SSP1「持続可能性」: 環境政策が強化されることで、土地利用転換(森林破壊など)が大幅に削減されるシナリオ(1-1.9、1-2.6)
- これから: CMIP7実験 for IPCC AR7 (2029)
 - 生物多様性: 非常に低い温室効果ガス排出量の将来予測シナリオ(VLLO)では考慮すべき項目、森林再生・植林、二酸化炭素除去

